

多高通信

第209号 令和5年3月27日発行



さどく ゆたかに たくましく
宮城県多賀城高等学校

祝 45回生 卒業おめでとう!!

3月1日、第45回卒業証書授与式が挙行されました。新型コロナウイルス感染症予防のため残念ながら今年も在校生の同席はかきませんでしたが、保護者の皆様方に見守られ、普通科233名、災害科学科40名、計273名が本校を巣立っていきましました。

■答辞 3年1組 菊池 せせら(東豊中出身)



高校生活を振り返ると、この三年間たくさん思い出ができましたが、どの場面においても人にめぐまれた高校生活だったと改めて感じます。入学初日、担任として教室に入ってきた担任の先生の明るい声が響き渡り、少しずつ緊張がほぐれたことを覚えています。一年生の頃は慣れないことばかりでしたが、先生方がよく言ってくださった「多賀城高校生には、素直な生徒が多い」、その言葉通り、良い仲間が囲まれ毎日が笑顔で溢れていました。

二年生では、誰もが楽しみにしていた修学旅行がありました。「生徒のために」と動いてくださった先生方のおかげで、無事に修学旅行に向かうことができました。北海道の素敵な夜景、新鮮なお刺身、班全員が寝てしまった路面電車、怖くて眠れなかった一人部屋、一瞬一瞬が楽しく、やはり旅行は「どこにいくかよりも誰と行くか」なのだ改めて感じることができました。



最高学年となった三年生では、学校行事に全てに「最後の」という言葉が付きましました。私は三年間、文化祭ではチエキを撮っていたのですが、フィルムが越しに見える一人一人の笑顔が本当に輝いていて、その笑顔を見ていた私が一番の笑顔になっていたかもしれせん。



そして、あつという間に受験が近づいてきました。受験期には辛いとき、投げ出したいときがたくさんありました。ですが、私はその分、人の温かさに気付くことができました。「一緒に頑張ろうね」といっても側にいてくれた友人、放課後暗くなるまで面接練習に付き合ってくれた先生方、何より「自分の道を進みなさい」と背中を押してくれた家族、感謝してもしきれません。

これから先どんな道が待っているのかは誰にも分かりません。しかし、ふと、多賀城高校で過ごした日々を思い出すと、それが原動力となります。私達がこれから進む一人一人の道に、胸を張って進んでいくことを、ここに約束します。

世界防災フォーラムに出席!

3月11日(土)〜12日(日)、第3回世界防災フォーラムで、多賀城高校災害科学科のブース展示を行いました。世界防災フォーラムには関連イベントを含め、3日間で32カ国から関係者が参加されました。

災害科学科の自然災害や防災・減災・伝災を科学的な視点で探究するといった防災教育についてだけでなく、東日本大震災の伝災活動の中心となる「多賀城市津波伝承まち歩き活動」を紹介しました。また、2年生の課題研究ポスター4題と1年生の浦戸巡検研究ポスター1題を発表しました。防災・減災・伝災の取組は世界でも注目されており、自分た



の学びに対する意識向上がますます期待されます。

災害科学科

トルコ・シリア大地震募金活動



者への支援として、募金活動を行いました。

トルコ共和国は、東日本大震災の時に宮城県において救助・支援チームを派遣していただき、多くの支援をいただきました。今回の募金は、東日本大震災の恩返しの意味も込めて、防災を学ぶ生徒たちが、計画を一から立て、自主的に活動したものです。地域の皆様の温かいお声がけやご支援を賜り、総額223,830円の募金を集めることができました。集まった募金は、3月15日付けで、駐日トルコ共

和国大使館への振り込みを行い、大使館から現地の支援にご活用いただけます。

【生徒より】

東日本大震災の時に、多賀城市や七ヶ浜町で救助活動や様々な支援をいただいたトルコ共和国が大地震によって多くの犠牲者や大きな被害を受けたと知りました。私たちは東日本大震災を胸に、防災・減災を学んでおり、そんな私たちが何かできないかと考え、募金活動を行いました。多くの方々にご協力いただき、多くの募金を集めることができました。募金だけでなく、ご協力いただいた方々や私たちの想いも共に届け、少しでもトルコ・シリア大地震の被災者の方々の支援につながればと思います。ご協力いただき、本当にありがとうございます。今後も継続して、支援を続けていきたいと思えます。

1学年

裁判制度に関する講座開催

令和5年1月19日(木)7校時、シチズンシップ教育の一環として、1年生を対象にした「裁判制度に関する講座」を開催しました。今回は、仙台地方検察庁より宮尾友里恵様を講師にお迎えし、検察庁の組織や仕事内容に関する事、事件発生から起訴に至るまでの流れ、そして「裁判員制度」の仕組み等についてお話をいただきました。

【生徒の感想】

私は、今まで裁判は映画などでしか見たことがなく、実際にどんなものなのか全く知らなかったため、講話を聞いてとても勉強になりました。今まで裁判員制度はそれなりのリスクを伴うのになぜ実施するのだろうと思っていました。重大な事件だからこそ国民の視点・感覚を元に判断しなければならないと聞き、納得しました。今回の講演で、改めて裁判官や検察官は重大な責任を伴う仕事のためいつも誠実で公正中立でいなければならない難しい仕事だと学びました。これから私も裁判官の方々のようにどんなことにも責任を持ち、最後までやり遂げるようにしたいと思います。



改めて裁判官や検察官は重大な責任を伴う仕事のためいつも誠実で公正中立でいなければならない難しい仕事だと学びました。これから私も裁判官の方々のようにどんなことにも責任を持ち、最後までやり遂げるようにしたいと思います。